

ヒューマン 上田

ヒューマン【Human】とは…

「人間の」とか「人間的」と訳され、一人ひとりの人権を大切に
する明るい上田市であることを願い、名付けられました。

「みんな なかよし」

上田市人権啓発推進委員会 会長 橋爪 一壽

平成 29 年度の人権啓発ポスターの部において最優秀作品に選ばれた「みんな なかよし」です。上田市人権啓発推進委員会では、作品に込められた思いのように、市民の皆様お一人おひとりの個性が輝く、みんなが仲よしで住みやすいまちになるよう、微力ながら活動してまいりたいと考えています。

さて、お釈迦様の住んでいた蓮池には、様々な人々が住んでいたといひます。“赤色の人は赤い光を放つ”、“青色の人は青い光を放つ” 様々な人々がそれぞれの個性をもって生活しており、それを、お釈迦様は“十人十色”と言っております。

わたし達の住む社会には、男性と女性の性のみと思ひ込んでいたのではないのでしょうか。過去を振り返ってみれば、ある男性の様々な振る舞いや行動等が男性とは違ふと思われる人はおりましたが、私も含め皆さんも特に気に留めなかったのではないのでしょうか。

今、わたし達の周りにも“からだ”と“こころ”の性が一致せず苦しんでいる人がいます。最近、性のあり方について、人それぞれであることが理解されてまいりましたが、当事者の皆さんがご自分のことをポジティブに語る言葉として、最近日本でも使われるようになってきているのが、LGBT です。LGBT の人は生活するうえで様々な不利益を生じています。特に「偏見や好奇心な目で見られる。こころの悩みを誰にも打ち明けられない、また友達もできない。」といった理由で悩む人が多いのです。

LGBT の人たちへの思いを理解し、一人の人間としての生き方として受け止め、金子みすゞ（童謡詩人）の言う“みんなちがってみんないい”と個々の生き方を“個性”（多様な性格を持った人たち）として捉え、一人ひとりが自分らしく自由に生きられる時代が、わたし達が心から願う“人権世紀”なのではないのでしょうか。

今回の特別企画は、担当係の委員が何回も検討を重ね記事といたしました。お読みいただき LGBT の皆さんに関する課題や現状について、理解を深めていただければと思います。

なお、記事をお読みいただいた方には、ご意見やご感想をいただければ今後の励みとなります。ご協力をお願いいたします。



《ポスターの部 最優秀作品》 東小学校 二年 松澤 直樹「みんな なかよし」

特集

「LGBT」について

「LGBT」ってなに？



Q 最近新聞や雑誌、テレビなどで「LGBT（エルジービーティー）」って言葉をよく目にしたり耳にしたりするようになったけれど「LGBT」ってなんのこと？

A 性のありようを表す4つの言葉の頭文字だね。どんな意味なのか、ちょっと表を見てね。



	頭文字の意味	内容	説明
L	Lesbian (レズビアン)	性指向	女性同性愛者：女性に惹かれる女性
G	Gay (ゲイ)		男性同性愛者：男性に惹かれる男性
B	Bisexual (バイセクシュアル)		両性愛者：男性女性どちらにも惹かれる人
T	Transgender (トランスジェンダー)	性自認	体の性と心の性が一致せず、自分の感じる性として扱われたい、生きたいと望む人



こうしたLGBTの枠にあてはまらない人もいて、「性」はとても多様なんだよ。性的に異性に惹かれる人は人数としては多いけれど、それと同じように同性に、あるいは両性に惹かれる人たちもいるんだよ。

Q なぜそれが問題なの？

A 性指向や性自認によって偏見や差別が生まれているからさ。



LGBTの子どもの声に耳を傾ける ～生きづらさを感じている子どもたち～

絵を描くのが得意で長い髪をしていた戸籍上男子のAは、中学入学後に女子しかいない美術部へ入部。学校では休み時間にトイレに行くことを嫌い、授業中に許可を得て行くことが多かった。春の健康診断の時、Aの生きづらさに初めて気がついた。検査を前にして脱いだ体操着のTシャツで胸を隠し、頭を下げて身を縮めるようにして、椅子に座って待っているAがそこにいた。Aにとっては、ほかの男子の前で上半身裸にされて待つことは、苦痛にほかならなかったのである。

その外見や行動からAが性別違和を感じているように見えた片野先生は、いつでもAを受け入れられる保健室を目指すことを決めた。Aが初めて自分から保健室に来室したのは3年生の2学期だった。運動会の練習を抜け、男子との身体接触が多い練習は耐えられないと訴えてきた。それ以来、練習のたびに吐き気やめまいを訴えて保健室に来るようになった。そして自分の思いを語り始めた。男子と接触がある運動会は最も嫌いな行事で、3年間我慢してきたが今年はその限界であると……。

運動会後もAは保健室に時折顔を出し、次第に幻聴などの精神症状に悩まされていることが分かってきた。片野先生はAが集団生活を送るなかで感じる違和感が環境の中で抑圧され、二次障害を引き起こしてしまったのかもしれないと心を痛めた。

卒業後Aは高校に進学し、イラストを学ぶことにやりがいを感じ頑張っている。Aとの出会いを通して片野先生は私たちに訴える。「LGBTの子どもたちの隠れた本当の声に耳を傾けなければならない」「無知や無配慮が人権を侵害し、命を奪った事例を私たちの社会は知っている」と。

片野真紀「LGBTの子どもたちに出会ったことはありますか？保健室とLGBTの子どもたち」（『部落解放』748号 解放出版社 2017年 所収）より

《学校での取り組みは》

小学校では服装も自由で、男女で一緒にやることが多く、性的な違和を感じる子どもはほとんどいませんが、中学校では制服が男女別になったり、また男女で分かれて活動することが多くなったりして、性を意識するようになり、自分の性に不安や、疑問を持つ生徒も出てきています。学校の養護教諭がそのような生徒の相談に応じたり、また図書館や保健室に LGBT 関連の書籍を用意して、子どもたちがいつでも読めるようにしたりしています。更に学年に応じて講師や養護教諭による授業を計画して行っている学校もあります。

上田市A中学校では3年生を対象に「多様なセクシュアリティ」というテーマで、「性の多様性について理解し尊重できるように、自分の在り方について考えよう。」を授業の「めあて」とし、養護教諭が全クラスで授業を行っています。その授業内容の概略を紹介します。

- 1 有名人パネルを見て、多様なセクシュアリティを持つ人がいることを知る。
- 2 LGBT についての説明を聞く。
- 3 有名人パネルから、性の4大要素を確認する。
- 4 性の樹形図から多様な性について知り、自分はどこに位置するのかを考える。
- 5 LGBT の人が困っていることを考え、発表する。
- 6 DVD を視聴し、LGBT の人の気持ちに触れ、自分だったらどうするかを発表する。

《市内の企業での取り組みは》

人権に配慮した取り組みを行っている上田市企業人権教育連絡会の会員企業 206 社に協力をいただき、LGBT に関するアンケート調査を実施しました。このうち 91 社から回答があり、LGBT に関する企業内の取り組みを確認した結果、「企業内に LGBT の従業員がいるか」については、回答のあった 91 社すべてが「把握していない」と回答されました。LGBT に関する企業の担当者からの意見として、「具体的な対応はしていないが、申告や対象者が把握できた場合は、必要な対応を図っていきたい」といった意見や、「どのようにして把握していったらよいか、参考になる例を教えてください」という意見をいただきました。LGBT についての理解を深め、企業として働きやすい環境づくり・職場づくりをどう進めるか、これからの取り組みに期待したいところです。

今回の特集で、わたしたちは考えました

「男は男らしく、女は女らしく」とは言うけれど・・・人は人。

それぞれが個性を持った存在であり、どちらかの性にこだわる必要はないのではないかな。

- 自分の理解が及ばない分野でも、当事者の声を聞けば、必ずその人を正しく知り、その人に近づいていけるのではないのでしょうか。
- 学校でも、企業でも、地域でも「あなたは、あなたらしく」そうです。「それぞれの人々が、自分らしさを発揮出来る場所があれば居心地の良い世の中」になっていくのではないのでしょうか。

誰もが生きやすい
社会になるよう、
自分の立場で、何ができるか
ご一緒に考えてみませんか。

人権に関する市民意識調査を実施しました

- ① 調査目的
- ② 調査方法
- ③ 回収結果
- ④ 調査結果

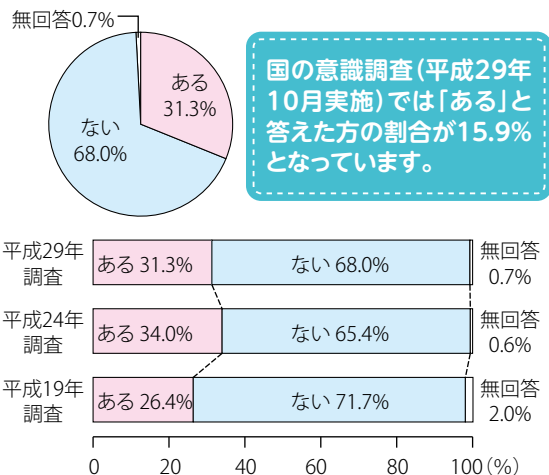
人権問題に関する市民の意識や実態を把握し、上田市の人権教育推進の基礎資料とするとともに、今後の人権施策推進の参考とするため。(前回調査は平成24年5月に実施)

(1)【調査地域】上田市全域 (2)【調査対象】市内在住の20歳以上の男女2,000人
 (3)【抽出方法】平成29年7月1日現在の住民基本台帳から男女1,000人ずつ

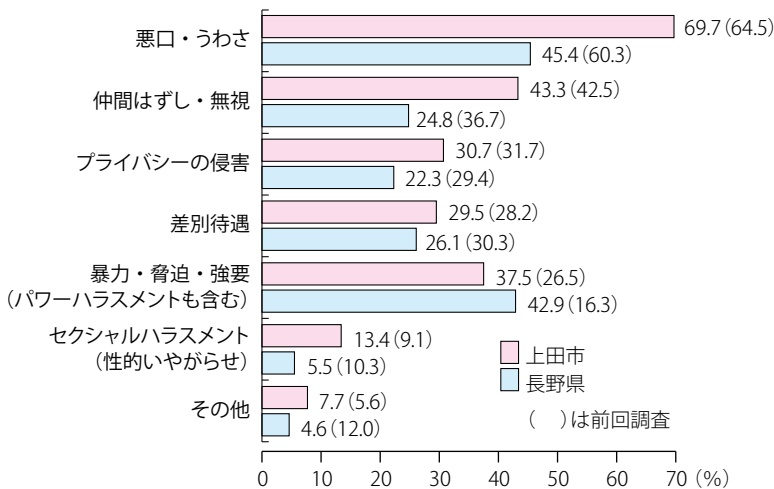
(1)【到達数】1,993件(2,000件中) (2)【回答数】834件(41.7%)

設問42問中、4問を抜粋して、結果をご紹介します。グラフ中の長野県の調査は、平成27年1月に実施された「人権に関する県民意識調査」に基づいています。

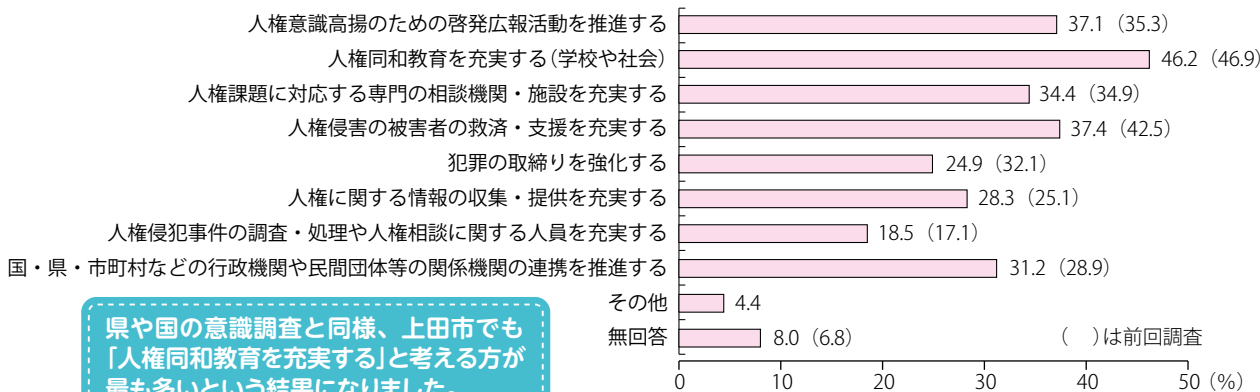
(1) あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。



(2) その人権侵害は、どのようなものでしたか。

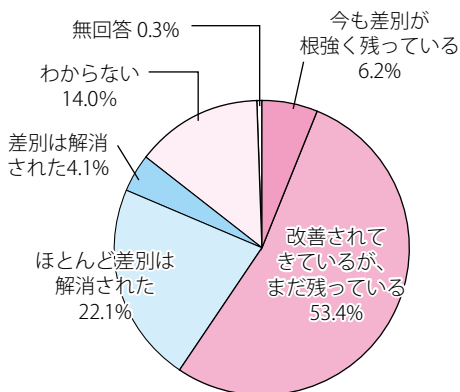


(3) 人権課題を解決するために必要と思われることは何ですか。



県や国の意識調査と同様、上田市でも「人権同和教育を充実する」と考える方が最も多いという結果になりました。

(4) あなたは、同和問題についてどのようにお考えですか。



平成28年12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。今もなお、部落差別は解消されず悩み苦しんでいる方々がおられることを国が認め、その差別解消に向けた取り組みを推進していくために国が定めた法律です。

一人ひとりが部落差別をはじめあらゆる差別の解消に向け行動し、誰もが人間らしく幸せに暮らせる社会を実現していくことが重要です。

※調査結果の詳細については上田市のホームページ「楽しむ・文化・スポーツ」生涯学習の「人権に関する市民意識調査」をご覧ください。

いのち・愛、そして絆を大切に作るまちづくり

上田市人権啓発推進委員会 平成29年度の活動紹介

上田市人権啓発推進委員会は、各団体の代表や自主的に入会した約120名の市民で構成されています。当委員会では、お互いの人権を尊重し、あらゆる差別をなくそうと学習や市民への啓発活動を行っています。より多くの皆様に当委員会を知って参加していただきたく、この1年間の主な活動をご紹介します。

委員視察研修会

平成29年7月13日



▲小塚原刑場跡

東京都台東区の皮革産業資料館と江戸時代、被差別民衆の頭として、浅草新町を治めていた浅草弾左衛門関連史跡を見学してきました。

午前中は、人権プラザ分館でDVDを見たり担当者のお話をお聞きしたりしました。当時このあたりに住む人たちは、独自の社会をつくり、人や動物の死に関することから警察や商工業そして芸能に至るまで、多くの仕事をしてきたことなどをお聞きしました。

午後は、小塚原刑場跡へ行き、腑分け（解剖）をしていた虎松の祖父が杉田玄白らに心臓や肝臓などを教え、「解体新書」を出版するきっかけをつくったことや、処刑された人を弔うために延命寺が建てられたことをお聞きしました。今回は、同和問題に関する研修でした。自分が間違った理解をしていたことに気づき、正しく学び・伝えていくことの大切さを感じました。

人権を考える市民のつどい

平成29年10月12日



今年の講師は夜回り先生で有名な水谷修さん。演題は「あした笑顔になあれ」～夜回り先生、いのちの授業～でした。水谷さんは、定時制高校の教師だった自身の経験から「27年前、私は昼の住人から夜の住人になった。昼間の世界から夜の世界へ行ってしまった子どもたちをたくさん見てきた」と語り始めました。そして、好んで夜の世界を目指したりする子はいない、と続けました。

人間は、昼のうちに活動する動物で、夜は寝るもの。夜は言い換えると、一旦死ぬような状態。夜しなくてもいいことをしていると、次第に感情的になってイライラする。だから昼間のうちに十分活動して体を使うことが大切なんだと。心と体は一体のものだから、特に心が疲

れた時は、体を使ったらいい。そうしてバランスを取ることが大切だと。

子ども達の命に係わる課題に真正面から取り組んだ凄まじい自身の体験の中から出てくる言葉には、わたし達を圧倒するほどの迫力が感じられました。

人権啓発担当者研修会

平成29年11月11日

この研修会では、市内の社会教育関係団体の人権担当者約170人が、資質の向上を目指して学び合いました。



前半の身近な人権について考える人権啓発DVD『生まれ来る子へ』の視聴では、「私もDVDを観て、反省することが多かった。今は妻に感謝しています。」「気が付かないうちに差別をしていたことに気がきました。」など、ドラマと自分を結びつけて考えていただきました。

後半の分科会では、語り合うことを通して研修を深めていただき「気づくことの大切さを改めて感じる事ができました。」「人権をテーマに皆さんとお話しして、気持ちがすっきりして楽しかったです。」などの感想を寄せていただきました。

街頭啓発

平成29年12月4日



▲上田駅前

人権週間に合わせて、上田駅や市内スーパー等で啓発活動を行いました。早朝、足早に職場や学校へ向かう人々に啓発物品を添えて、人権啓発ちらしを手渡しました。

【参加者の声】

五十代の女性は、「お互いに我慢をすることも円満のコツ」、福祉の勉強をしている学生は、「人権にとっても関心がある」と、県外から上田へ来られた学生は、「あまり人権問題はきかないが関心を持って過ごしたい」と話していました。

人権作品審査

平成29年12月13日～平成30年1月12日



あらゆる差別をなくし豊かな心に満ちた人権尊重の社会を目指し、人権に関わる作文・詩・標語・ポスターを募集いたしました。園児・児童・生徒、市民の皆様から820点もの作品が集まりました。ご協力に感謝申し上げます。それぞれの作品から一人ひとりを大切にして共に生きていくことの大切さが伝わってきます。

審査を経て応募作品の中より最優秀・優秀作品が決まりました。選出された作品は、人権が尊重される社会の実現を目指し今後の人権啓発活動で活用させていただきます。

うえだ人権フェスティバル

平成30年2月17日～18日

川西小学校4年生の皆さんによる「リコーダー演奏」で始まった、川西公民館での人権フェスティバルは、両手の自由が全く利かず足を使って様々な創作活動を行っている、ふうちゃんこと富永房枝さんが「泣いたら次は笑おうよ」～わたしが私であるために～と題して、ユーモアを交えながらキーボードによる演奏と自分が生きてきて感じてきたことを話され、「世界で一人しかない自分を好きになってほしい」「自分らしく、楽しく、元気で、笑顔で生きてほしい」とメッセージを送られました。

18日の日曜日には「私たちができること」と題し、上田第六中学校生徒会でいじめや仲間はずしがなく毎日の学校生活が笑顔で過ごせるよう受け継がれて取り組んできている、～黄色いリボン運動～についての発表がありました。

他にも、子どもたちの人権作品表彰式・さまざまな人権に関する展示があり、おもてなしコーナーではとん汁のふるまいがありました。



詩の部

仲よしってなんだろう

神科小学校六年 細谷 利彦

仲よしってなんだろう

なぜ『仲』ってつかうんだ
きつと『仲』は人の中
つまり心

心よしってなる

仲よしになるには
心がよくなければ
いけないんだなあ

仲よしになるために
友だちをつくるために
心をよくしよう



詩の部 最優秀賞 受賞者

あおくんみたいたいになりたいな

城下小学校一年 田中 愛理

しゅんくんの手

塩田西小学校二年 丸山 拓海

こっせつ

神科小学校三年 窪田 朔

友だちとけんかした

本原小学校四年 池田 惇汰

勇気

塩田西小学校五年 水野 晶

仲よしってなんだろう

神科小学校六年 細谷 利彦

作文の部

最優秀賞 受賞者

みんなともだち

東塩田小学校一年 小林 啓人

しゅんくんの手じゅつ

塩田西小学校二年 滝澤 彩葉

アザレアン真田へ行って

本原小学校三年 古市 乃愛

思いやる心

川辺小学校四年 下崎 友菜

友達の応えんで…

塩尻小学校五年 高野 杏

かげで悪口

東小学校六年 松木野々花

僕のおばあちゃん

塩田中学校一年 坂田 士昌

「やわらかい心」を持って

依田窪南部中学校二年 北野 友愛

私の弟

丸子中学校三年 翠川 亜夢

バリアをなくすためには

丸子修学館高等学校二年 三澤 恵

平成29年度 最優秀人権啓発作品



▲うえだ人権フェスティバルで表彰式が行われました。
(平成30年2月17日)

上田市人権啓発推進委員会では、上田市教育委員会とともに、毎年多くの方に人権尊重への理解を深めていただくために人権啓発作品(作文・詩・標語・ポスター)を募集しています。

今年度も小中学生をはじめたくさんの方に、応募していただきました。その中から最優秀作品に選ばれた作品の一部を紹介します。

標語の部

こまってる

こえをかけよう どうしたの

城下小学校一年 手塚 健太

「どうしたの?」

ゆう気を出して 聞いてみた

塩田西小学校二年 市村虎太郎

「遊ぼうよ。」

一人ぼっちに まほうの言葉

塩尻小学校三年 酒井 愛理

傷ついた

心に花咲く 思いやり

川辺小学校四年 池田 真帆

ふざけても

相手はいじめと思うかも

神科小学校五年 六川 祐和

よく見てね

気づいてあげよう SOS

北小学校六年 荻原 絹乃

気づいてね

あなたの味方 そばにいる

丸子北中学校一年 竹花 和夏

目指したい

人の痛みを 知る自分

第六中学校二年 堀内 千鈴

ひとりじゃない

味方はいるよ すぐそばに

第五中学校三年 小林 玲奈

他人の傷み

向き合う勇気が みんなを繋ぐ

シナノケンシ株式会社 宮坂 升美

作文の部

友達の応えんで…

塩尻小学校五年 高野 杏

私には、「若年性特発性関節炎」という病気があります。二歳ごろに発症しました。はじめのころは、歩くことができませんでした。薬を飲みながら少しずつ、歩けるようになり、運動ができるようになりました。

初めての保育園のころの運動会のかっこは、最下位でした。運動は好きですが、三年の三期期の始まりのころに、この病気が悪化し、体育は、してはいけなとお医者さんに言われてしまいました。そして、友達からは、「なんで体育やんないの?」と聞かれることもあり、四年生の終わりまで、体育はできませんでした。

しかし、五年生になって病院に行くのと病院の先生から「よくなっているんで体育やっていいですよ」と言われました。私は、とてもうれしかったです。これでドッジボールやサッカーができると思います。

五年生には、最大の行事、高原学習があります。私たちの学校は、烏帽子岳に登ることになっていました。私は、登れるのが不安でした。下見で家族で登った時は、すごく疲れてしまいすぐ諦めてしまいました。

た。本番は、頂上まで行くことなんて、とうてい無理だと思っていた。

そして、高原学習の日。サポート役&カメラマンのお父さんもついて行きながら、登りました。友達と話をしながら登ると、疲れが吹き飛ぶような感じがしました。急な斜面は、とても大変で、「もう無理・・・」と思つて終わりにしようと思つた時、みんなが「ファイト」「ももちゃんがんばれ」という声が聞こえました。その言葉で、力が湧いてきました。私も「みんなもがんばつて」と答えました。

そして、なんと頂上まで登ることができたのです。頂上についたときに、私はさげました。「頂上まで登つて来た、もも参上。」最高の気分でした。

頂上までは、一人では決して登ることはできなかったと思います。もうだめだと思つた時に、友達の声やがんばる姿を見て、私もがんばろうと思ひ、登りることができました。友達に助けられ、頂上まで登れたことは、今まで生きてきた中で一番の思い出となりました。

ポスターの部



みんなで あそぼう
城下小学校 一年 田畑 亮介



え顔いっぱい
神科小学校 三年 高橋 健太



奏でよう 個性の音色
神科小学校 六年 坂田 知鞠



力を合わせて
東小学校 四年 岩田 紗奈



人それぞれの 色がある
第五中学校 一年 荒井 菜七瀬



痛みや苦しみを 訴えて
塩田中学校 三年 高野 伊織



世界は友達
塩田西小学校 五年 竹内 奏樹



言葉で心を傷つけないで
塩田中学校 二年 齊藤 亜弥

ぜひご覧ください!

行政チャンネルにて「いのち・愛・そして絆を大切にするまちづくり～上田市人権啓発推進委員会の活動～」を紹介しています。

上田市人権啓発推進委員会への
ご意見、入会申込み(年会費500円)は事務局まで。

《事務局》上田市教育委員会 生涯学習・文化財課
TEL.23-5197 FAX.23-6368